

「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多ありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の **巡1** 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

※**濃い赤線の道**は、古図を元に現在の土地の痕跡や、過去の航空写真を参考に記入しました。



34. 五街道の道しるべを巡り歩く その四「巡礼街道（順礼街道）」後編

今回は巡礼街道別ルート（東ルート）です。前編で本線（近道・西ルート）と分かれた、軽里の四つ辻を直進して北へ向かいます。



軽里の四つ辻 巡 5

白鳥通りの軽里 3 丁目の信号を北へ渡ります。左手に「古市大溝跡（旧細池）」の大きな切れ込みが見えます。



巡 1 1

余談 古市大溝（旧細池）の道路を挟んだ東側に、イズミヤ古市店があります。この場所に昭和 11（1936）年、兵庫県武庫郡甲陽園から極東映画株が移転し、「極東キネマ白鳥園撮影所」として昭和 16（1941）年に東宝の傘下に入るまでの 6 年間、娯楽の最先端をいく映画が制作されました。

敷地一万坪、建物にはステージ 3 棟（トーキー用ステージ 1 棟、萬年ステージ 2 棟）、事務所、萬年セット・大道具・小道具倉庫などがあり、従業員は俳優を含め所長以下 175 人の相当大的な撮影所であった。その結果、昭和 12 年に極東キネマ株と改称した同社が、昭和 16 年に東宝の傘下に入るまでの 6 年間、娯楽の先端をいく映画が羽曳野の地で制作されたのである。この極東キネマでは、月 4 本のペースで 6 年間に計 227 本の時代劇が制作された。大手のほとんどがトーキーに完全に移行した時代にあって、サイレント映画を制作し続けたが、1940 年には多くの極東作品もトーキーに移行した。

羽曳野市史



極東キネマのシンボルマーク

イズミヤの前を北へ進むと、二股に別れますが右側の細い道を進みます。
 浄元寺山古墳の西側を更に北へと進みます。



巡 1 2

やがて、左側に浄宗寺があり小さなクランク状の四つ辻に出ます。右折してすぐに左折し、
 また北へ進みます。現在は撤去されていますがこの四つ辻に道標がありました。



左が浄宗寺



道標のあった位置

巡 1 3



青山町内会のN氏言「車がまわりやすいように道標・電信柱を移動するのでは」とのこと。
 道標の行方は？ 『浄宗寺』住職に確認をすると、藤井寺市文化財保護課が引き上げたとのこと。
 「元に戻ることは無いでしょう」・・・



南 面	北 面	東 面
すぐ 大坂 ふじい寺	すぐ まきのふ山 こんがう山	文政九年丙戌五月立

巡 1 3

④ ④、⑤、⑥の道標はいずれも順礼街道の別ルート上にある。野中の浄宗寺の北東角の四つ辻にあり、造立者は不明であるが、文政9（1826）年に建立されたものである。

四つ辻からさらに北へ向かうと、大坂街道（古市街道）と合流する三叉路に出ます。この三叉路の東側に道標が立っています。* 古市から平野へ向かいますので大坂街道と表現しています。



巡 1 4

南 面

北 面



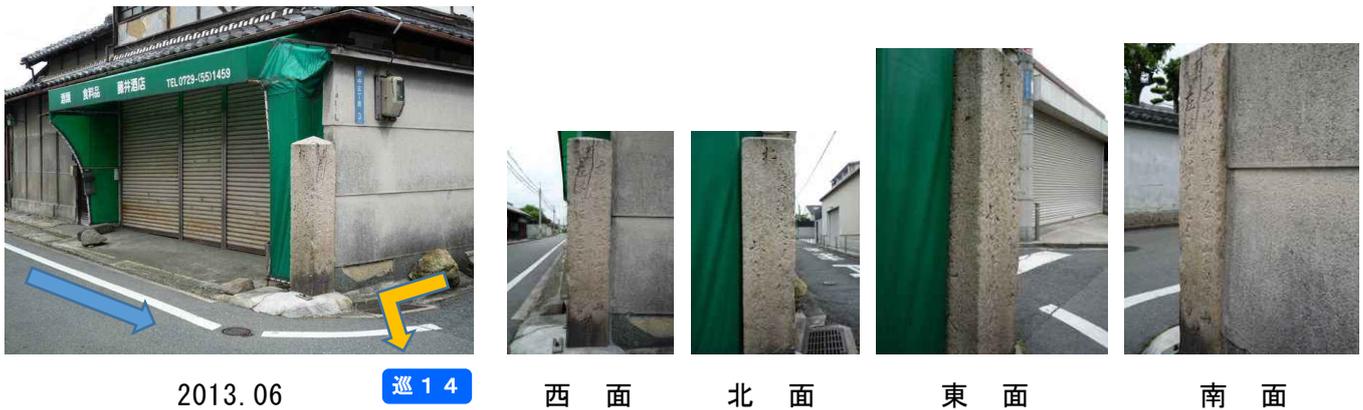
西 面

南 面	東 面	西 面	北 面
南 左 左ふじり寺 佐可以大坂道	東 寿久婦ぢ井寺 左海大坂道	西 右 まきの尾 金剛山 高野山 左つぼ坂はせよしの伊勢 道	北 嘉永第六癸丑年仲春 林猪十郎正路建篤

⑤ 順礼街道と下田道が重複する部分の東端の三叉路の東南角にある道標で、上部に方位を入れる。
東面と南面は建物に密着しているので、刻銘の有無や内容は不明である。この道標は野中村の庄屋、

林猪十郎正路が嘉永 6（1853）年 2 月に、ひろく沿道の諸霊場への案内のために造立したものである。内容は豊富であるが、文字は細く小ぶりである。（古市街道と同じものです）

上記解説文（羽曳野市史）にあるように、東面・南面は建物に密着して内容は不明であったが、2014 年に建物が撤去され刻銘が判読できるようになっています。当時の状況は下記の通り。



この三叉路を左折、大坂街道（古市街道）と重複して西へ向かいます。



北面・正面	西面・右側	東面・左側	南面・裏面																																																																						
<table border="0"> <tr> <td>左</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td>ふ</td> </tr> <tr> <td>か</td> <td>ぢ</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>る</td> </tr> <tr> <td>つ</td> <td>寺</td> </tr> <tr> <td>み</td> <td>大</td> </tr> <tr> <td></td> <td>坂</td> </tr> </table>	左	右	さ	ふ	か	ぢ	い	る	つ	寺	み	大		坂	<table border="0"> <tr> <td>左</td> </tr> <tr> <td>つ</td> </tr> <tr> <td>ぼ</td> </tr> <tr> <td>坂</td> </tr> <tr> <td>吉</td> </tr> <tr> <td>野</td> </tr> </table>	左	つ	ぼ	坂	吉	野	<table border="0"> <tr> <td>慶</td> </tr> <tr> <td>応</td> </tr> <tr> <td>元</td> </tr> <tr> <td>乙</td> </tr> <tr> <td>丑</td> </tr> <tr> <td>年</td> </tr> <tr> <td>六</td> </tr> <tr> <td>月</td> </tr> <tr> <td>十</td> </tr> <tr> <td>七</td> </tr> <tr> <td>日</td> </tr> <tr> <td>往</td> </tr> <tr> <td>生</td> </tr> <tr> <td>俗</td> </tr> <tr> <td>名</td> </tr> <tr> <td>朝</td> </tr> <tr> <td>田</td> </tr> <tr> <td>伴</td> </tr> <tr> <td>次</td> </tr> <tr> <td>郎</td> </tr> </table>	慶	応	元	乙	丑	年	六	月	十	七	日	往	生	俗	名	朝	田	伴	次	郎	<table border="0"> <tr> <td>あ</td> </tr> <tr> <td>ら</td> </tr> <tr> <td>た</td> </tr> <tr> <td>の</td> </tr> <tr> <td>し</td> </tr> <tr> <td>月</td> </tr> <tr> <td>も</td> </tr> <tr> <td>ろ</td> </tr> <tr> <td>と</td> </tr> <tr> <td>も</td> </tr> <tr> <td>に</td> </tr> <tr> <td>西</td> </tr> <tr> <td>の</td> </tr> <tr> <td>か</td> </tr> <tr> <td>た</td> </tr> <tr> <td>さ</td> </tr> <tr> <td>し</td> </tr> <tr> <td>て</td> </tr> <tr> <td>我</td> </tr> <tr> <td>身</td> </tr> <tr> <td>も</td> </tr> <tr> <td>行</td> </tr> <tr> <td>と</td> </tr> <tr> <td>お</td> </tr> <tr> <td>も</td> </tr> <tr> <td>へ</td> </tr> <tr> <td>ば</td> </tr> <tr> <td>釈</td> </tr> <tr> <td>了</td> </tr> <tr> <td>空</td> </tr> </table>	あ	ら	た	の	し	月	も	ろ	と	も	に	西	の	か	た	さ	し	て	我	身	も	行	と	お	も	へ	ば	釈	了	空
左	右																																																																								
さ	ふ																																																																								
か	ぢ																																																																								
い	る																																																																								
つ	寺																																																																								
み	大																																																																								
	坂																																																																								
左																																																																									
つ																																																																									
ぼ																																																																									
坂																																																																									
吉																																																																									
野																																																																									
慶																																																																									
応																																																																									
元																																																																									
乙																																																																									
丑																																																																									
年																																																																									
六																																																																									
月																																																																									
十																																																																									
七																																																																									
日																																																																									
往																																																																									
生																																																																									
俗																																																																									
名																																																																									
朝																																																																									
田																																																																									
伴																																																																									
次																																																																									
郎																																																																									
あ																																																																									
ら																																																																									
た																																																																									
の																																																																									
し																																																																									
月																																																																									
も																																																																									
ろ																																																																									
と																																																																									
も																																																																									
に																																																																									
西																																																																									
の																																																																									
か																																																																									
た																																																																									
さ																																																																									
し																																																																									
て																																																																									
我																																																																									
身																																																																									
も																																																																									
行																																																																									
と																																																																									
お																																																																									
も																																																																									
へ																																																																									
ば																																																																									
釈																																																																									
了																																																																									
空																																																																									

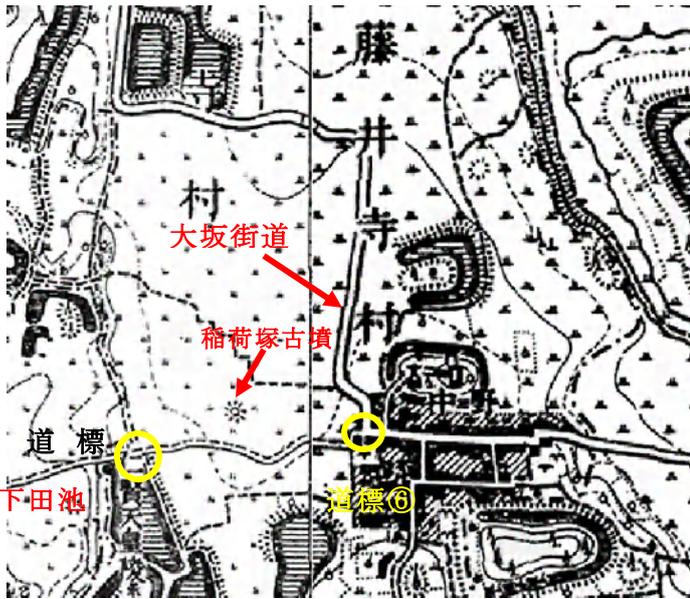
巡 15

⑥ この道標は、順礼街道と下田道※が分岐する地点にあり、慶応元（1865）年に没した朝田伴次郎（釈了空）の供養として造立されたもので、南面には辞世の和歌が刻まれている。

※下田道 藤井寺市野中から誉田へ通じる道、大坂街道の一部（古市街道と同じものです）

ここで、大坂街道（古市街道）は北へ進むが、巡礼街道はそのまま西へ向かいます。稲荷塚古墳の南側を進み、下田池の堤上にあった道標の所で、巡礼街道本線（西ルート・近道）と合流します。

この別ルートは本線と比べ明らかに遠回りなのですが、理由は定かではありません。



明治 41 年則図

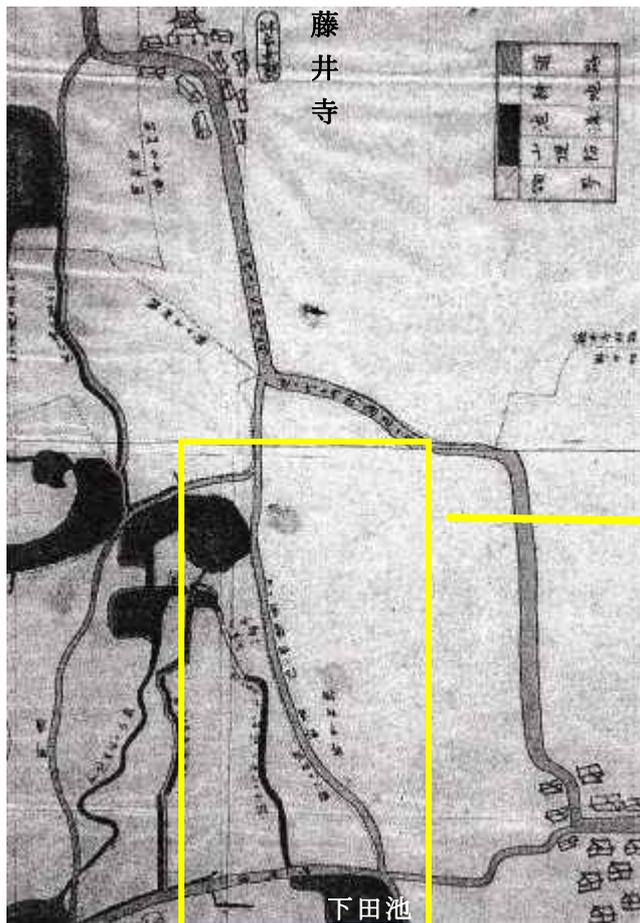


前方後円墳

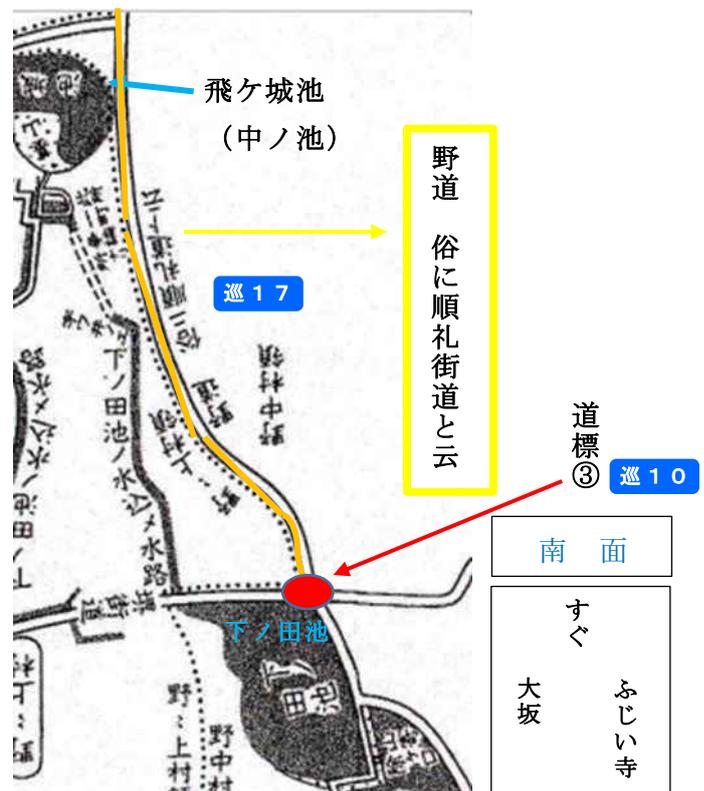
稲荷塚古墳

巡 1 6

下田池道標から北へ進むのですが、現在はほとんど失われており絵図・地図での検証となります。



河内国丹南郡野中・野々上・岡村溜池水掛かり絵図



一部拡大

下田池東堤（下田道と直交）から飛ヶ城池（中の池）東を通り、旧三ツ池（藤井寺市南小学校あたり）の西で野中方面からの大坂街道と合流し葛井寺南大門前へ。

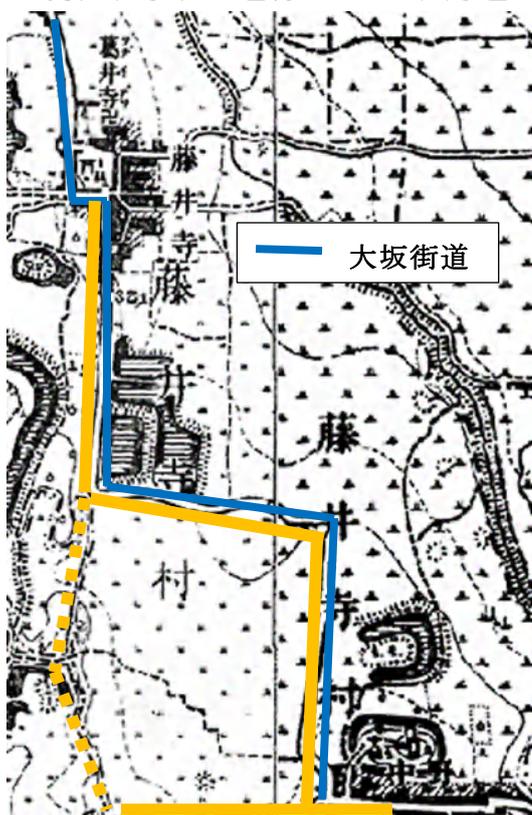


下田池から北方向 **巡10** 府31堺羽曳野線から南方向 **巡18** 府31堺羽曳野線から北方向 **巡18**
巡礼街道ルートを設定すると黄破線となるが、現在通行は不可能となっています。



この本線（近道・西ルート）の下田池東堤から北へ向かい大坂街道と合流するまでの道が、何時まで巡礼街道として機能していたのか、定かではありません。明治時代の則図には道として記載されていますが、それ以降は不明です。

現在、野中の道標から大坂街道と重複して北へ向かうルートが巡礼街道と云われています。



明治41（1908）年則図 **巡19**

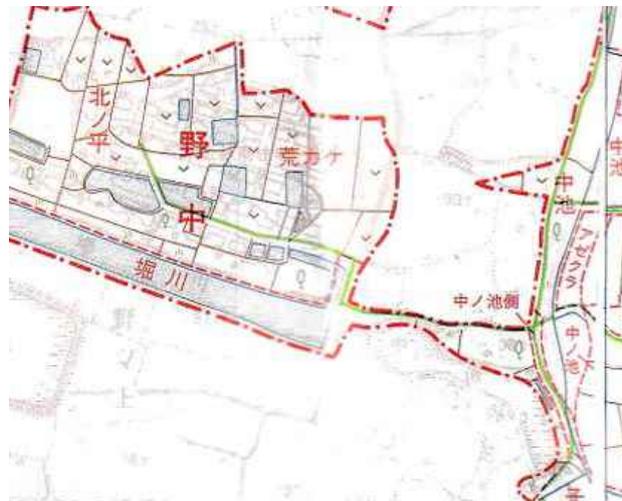


河州丹南郡葛井寺村絵図・宝暦8（1758）年

余談 飛ヶ城池（中ノ池）は、古市大溝の遺構を構成する溜池で、現在は中ノ池と呼ばれています。飛ヶ城（鳶ヶ城）と記載されている古絵図があります。鎌倉末期～南北朝に築かれた飛ヶ城があったのが名前の由来とされます。小字図には飛ヶ城池があり、墓山の西と南に城ヶ内の小字名があり、この辺りに砦等があったとされます。なお、所在地は羽曳野市野々上なのですが、この溜池も芦ヶ池と同様に所有は藤井寺市、水利組合は野中水利組合となっています。

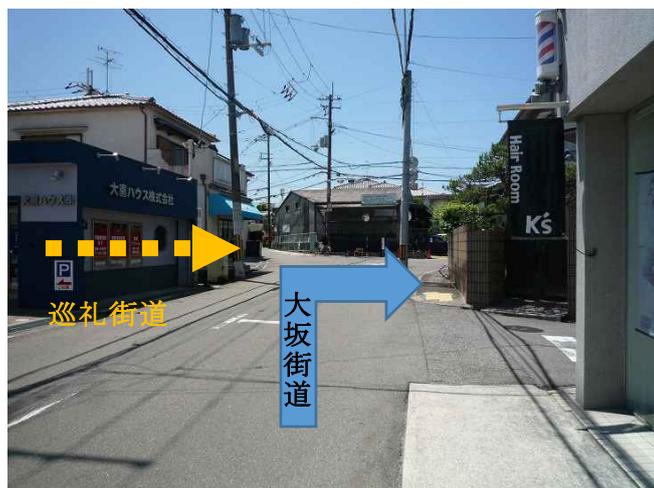


羽曳野市小字図



藤井寺市小字図

下田池東堤から北へ向かった道が大坂街道と合流し、重複しながら更に北へ向かいます。アイセルシュラホールの西側を通り北へ進み、二股になる道を右に進みます。



巡礼街道と大坂街道合流地点付近

巡 20



アイセルシュラホール





葛井寺

巡礼街道

大坂街道



突き当りに葛井寺南大門

巡 2 1

藤井寺市唯一の酒蔵

余談

葛井寺南大門が見えてきますが、少し手前に藤井寺市で唯一の酒蔵がありました。大正2（1913）年創業の『藤本雅一酒造醸』は惜しまれつつ2022年3月31日(木)をもって、酒蔵と販売所を閉店されました。厳選した米を磨き、国宝の千手観音さんで知られる葛井寺と源をいつにする地下からの汲み上げ水を使用して、創業以来の伝承の技で酒を醸しておられたのですが残念です。

葛井寺南大門前に到着です。大坂街道(古市街道)は此処を左折しさらに北へ向かいます。南大門前に道標があります。



葛井寺・南大門

巡 2 2



南大門前



西 面	北 面	東 面
右	左	堺
は せ い 勢	つ ぼ さ か よ し の	神 南 辺 大 道 心
	道 明 寺 た つ た	
	ほ う り う し な ら	

⑦ 西国第五番札所である葛井寺の南大門前の三叉路の南東角に所在する。この道標は、葛井寺への参詣者に次の霊場を案内するためのもので、西面は順礼街道を南下し、軽里から竹内街道に入って東進する場合を記し、北面は葛井寺の門前を東に進み、道明寺・国府を経て長尾街道に入り東進する場合を示す。

造立年代は不明であるが、堺在住の神南辺大道心（隆光）が社会事業の一環として制作したものである。碑文は美しくずし字で書かれ、彫りも深く、すぐれた道標と言える。

(古市街道と同じものです)



左
つ
ぼ
坂

巡 2 2

⑧ 葛井寺南大門前の三叉路の南西角、⑦の道標の向いに自然石があり、平らな北東面に「左 つぼ坂」と刻まれている。西国第六番札所である壺坂寺（壺坂山南法華寺）へは、順礼街道を戻って軽里から竹内街道を東に進む。札所のみを案内する順礼街道本来の道しるべである。

(古市街道と同じものです)

ここで四番札所榎尾寺から五番札所への巡礼街道は終点です。大坂街道は南大門前を左折し、さらに北へ進み平野郷へと続いていきます。

西国三十三所 第四番榎尾山施福寺（まきのおさん せふくじ（まきおでら））から 第五番紫雲山葛井寺（しうんざん ふじいでら）までの巡礼（順礼）街道をご紹介しましたが、葛井寺の次は 第六番壺坂山南法華寺（つぼさかさん みなみほっけじ（つぼさかでら））への参詣となります。

街道ではありませんが、葛井寺から先が気になります。 番外で紹介したいと思います。



西国三十三所名所図会
嘉永 6 (1853) 年

(2024.6 中村)